

令和8年度第1回旭川市科学館協議会議事録

○日時

令和8年7月24日（金曜日）午後2時から午後3時12分まで

○場所

旭川市科学館1階 学習・研修室

○出席者

（委員）

近藤委員、小嶋委員、伊藤委員、西川委員、奥村委員、早崎委員、吉田委員

（事務局）

田村社会教育部長、内田科学館長、岳副館長、酒井専門官、福谷主査、川辺主査、秋山主査、近藤主査、鷺見主査

○会議の公開・非公開

公開

○傍聴者の数

なし

○会議資料

資料1 旭川市科学館報－令和7年度版－

資料2 令和8年度旭川市科学館企画展「天気のみしぎ」開催概要

資料3 旭川市科学館サイパル 料金改定一覧表

資料4 サイエンスボランティア募集案内

【会議要旨】

1 開会

2 議事

(1) 会長及び副会長の選任について

事務局	議事(1)について、事務局案を委員に諮る。
	会長は小嶋委員、副会長は伊藤委員に決定する。

(2) 科学館概要及び令和7年度事業実績について

会長	議事(2)について、事務局から説明願う。
事務局	資料1に基づき説明
会長	議事(2)について、質問、意見等の発言を願う。
委員	－（意見等なし）－

(3) 令和8年度科学館事業概要について

(4) 令和8年度企画展について

会長	議事(3)及び(4)について、事務局から一括して説明願う。
事務局	資料2に基づき説明
会長	議事(3)について、質問、意見等の発言を願う。
委員	昨年の特別展はすごく面白く、やはりゴジラというコンテンツは科学だけにとどまらず、たくさんの人に興味を持って来てもらえるコンテンツだったと思う。しかし「科学の不思議」という科学館のテーマに沿っていくのであれば、ゴジラのようなコンテンツに頼らなくても、今年の企画展のように科学的なものを開催する趣旨は分かる。なので、どのあたりを念頭に特別展や企画展をやっているのか。ゴジラ展はお金が結構かかっていると思うが、去年はどうしてこの予算が出たのか。今年も何かメジャーなものとコラボしたコンテンツをやれば、また人をたくさん呼べると思うが、そういう予算は去年は出て今年はないといったこともなぜなのかわからない。人をたくさん呼ぶことを目的としているのか、それともたくさん呼ぶことよりも科学の不思議を知ってもらうことで、科学を身近に感じてもらいたいというところで何か企画を進めているのか、こういった考え方、趣旨で進めているのか説明頂きたい。
事務局	昨年度は開館20周年記念事業ということで、20年目の節目で大きな催しを行うとして予算を確保し、アピール性が高いコンテンツとして、ゴジラ展を開催した。 科学知識、また科学に基づく体験、驚きは、この科学館を通じて様々な方々に、科学の恩恵も含めて広く伝えていかななくてはならない。そうした科学館の使命を果たしていくということは、一部の人だけが知ってればいいということではなく、特に未来を担う子どもたちを中心に科学知識の習得や体験、驚きを提供することを考慮すると、どうしても来館者数というのは意識するところである。 観光施設との違いはあるが、実態としては外国や道外からの家族連れも非常に多くなっている。市内はもちろん、札幌方面や道東方面からの学習研修旅行や修学旅行で年間200校ほど御利用頂いたり、放課後デイサービス、それから老人福祉施設などの利用もある。そうした学校利用や様々な団体等も含めて、利用頂いている趣旨を合わせながら、今後もいろいろな方々に来ていただく、そんなところに力を注いでいきたいと思っている。
委員	要は、一応来館者数を増やすという企画ではあるということだと。私が見知っている子どもたちは理科に興味がある子たちは科学館に来るが、興味のない子は来ない。旭川では動物園に次いで結構メインの大きなところなので、その中身云々を置いておいたとしても観光客などたくさん人に来てもらえると思う。でも、地元のそういう子どもたちの来館を増やすとなったときに、私が見ている限りでは、理科の好きな子は来る、でも、そうじゃない子は来ない。科学館なんだから理科に関するコンテンツを出すのは当たり前だが、パッと見てすごく理科の何かを伝えたいという要素が強くて、気軽にちょっと入って見たら面白かったなみたいな、そういう感覚で入れるような企画だ

	といいんだけど、やっぱり理科が好きな子向けの感じである。だから、そういった集客を考えたときに、果たして地元の子たち、何回も来ている子たち以外の興味のない子にも来てもらうという趣旨はあるのかなと思ったが、観光客とか様々なところで使っていただいているので、そういうところがメインになって興味の無い子どもたちが少ない層と考えるのであれば、そういう方向性でもいいのかなと思ったりもした。
会長	メインは「未来を担う子どもたちのために」が真ん中であり、そのために「ふしぎから始まる〈科学〉との出会い」がテーマになっているのかなという受け止めである。観光客に来ていただくのは大いに万々歳だが、それがターゲットではないということは多少なりとも感じていた。 あと学校に関わる者として、科学に興味のない子たちに興味を持たせたり、理科は面白いと感じさせることの責任は一定程度学校にはあるかなということを感じていた。学校としてもしっかり受け止めていきたい。
事務局	全道の科学館会議での情報交換では、どこの科学館も来館者数は全て右肩下がりであった。もちろんそのターゲットは基本的には小中学生であるが、そこだけがメインになったら、今後少子化が極端に進んでいくので来館者数が右肩下がりにならざるを得ない。そうした中でどうやって館を維持していくか、運営していくかということを考えたときに、小中学生を外してはいけないと思うが、それ以外の人たちにいかに来館していただくかという視点が大事なかなと思う。決して観光客を主にするという考えは無いが、そういう方たちも取り込みながら一定の来館者数をキープしていくことが、館を維持していくということになると思っている。 ゴジラ展で非常に印象的だったのは、小さいお子さん方をお父さんが無理やり引っ張っていく、お父さんがすごく楽しみにして回ってる姿が結構多く見られた。子どもたちもジオラマ見たりとか何か楽しそうに見ていたということもある。あと旭川市民もそうなのだが、科学館に足を運んだことがないという人も結構いて、そういう人が来たときに、こんなに面白いんだ、こんなにいいことやっているんだと言われる方がすごく多い。だからそういった来館するきっかけをどうつくるかということが重要で、やはりライト層というか、そういう方でも参加しやすいような催物なども合わせて考えていくというのは、非常に大事なかなと思っている。 来館者数というのはやはり科学館の必要性というものの1番の物差しというか尺度になりがちかと思う。来館者が極端に減ったときに、例えば行財政改革というようなテーブルに乗せられたときに、これだけしか人が来てないのにこんなにコストをかけて意味があるのか、もっと違うことにお金使ったほうがいいんじゃないのかというふうになりかねない。そういうことを考えると、一定の来館者数を今後もキープしていくという取組は非常に重要なかなとは考えている。
委員	「ふしぎから始まる科学との出会い」というのをどのように評価していくのかなというのが以前から疑問であった。子どもや大人が来館して感じたその不思議というものを、その個人の中にクローズしてしまうのではなくて、何か共有できるようなものがあるとある意味宣伝効果にもなるだろうし、先ほどの来館者数にうまく繋がるかは分からないが、あまり興味がなかった人

	も何かそういうレビューみたいなものを見て行ってみようかなというような気持ちになれるのかなとも思えるので、どうやってこのふしぎから始まる科学というものを評価していくのかなというところ、難しいが何かお考えがあれば教えていただきたい。
事務局	先ほどから続いている話に連なるものではあるが、理科好きだから科学館に来る、そこは当然で、ふらっと立ち寄ってみた科学館はすごく面白くて、結果として理科好きになった、または理科に興味を持てるようになったというふうになっていくのが、恐らく取組として必要な要素なんだろうと思う。 レビューの話を聞いたけども、科学館になぜ外国の方や道外の観光客が来られるのかというと、駅から歩いて15分の位置にはあるが、駅から15分で行ける目的地というのはほかにもたくさんある。その中でとりあえず旭川に来たけども、近くで行ける面白そうなところ、楽しそうなところはどこかなとスマホの画面で検索したときに、評価が高い、評判のいい科学館というのを目的に選んで来ていただいている、それが、結果として科学館の来館者数に繋がっているのかなと理解をしている。
委員	小学生や中学生の子どもたちを相手に科学的なことを講座でやるのだが、その中で、不思議に思うこととか疑問に思うこととかが山のように出てくるということがあり、それを例えば科学館に来たときに、一人ひとりの子どもたちがただ単にクローズドしてしまうのではなくて、共有できる何かがあるといいのかなとは思っていて、それが意味何か評価につながるのかなとずっと感じているのだが、なかなかそういう仕組みをつくれというのは難しいと思う。そこまではいなくても何かそういう不思議さをどうやって共有するかみたいなところを少し考えてもらえたらなということはずっと思っている。
事務局	おそらく教育現場でもそうだと思うが、物事に対して不思議と感じる、感じ方の濃淡というかその個人個人の備わっている能力もあるのかなと感じている。不思議に感じる子は何を見ても自ら「これって不思議だな」と思えるが、それを見てもそれが当たり前だと、何でそうなのか聞いてもそれが当たり前だからと言って何も考えずに流してしまう子もいる。それを不思議だと掘り下げて考えられる子は恐らく理科とか、科学とかが好きになっていくような子なのかなと思うが、その濃淡ある中で、先ほど言われているような、やはり不思議と言えるような中身を見える化してその中で共有できる、その中で誰でも、濃淡ある人たちの中でも共感的に同じようなレベルで感じられるというのは、確かに一つの考え方としては重要なのかなと思う。 どうしても科学の不思議をなるほどと感じてくれる人もいれば、そうでない人も恐らくいるのだらうと思うので、それをどれぐらいの人たちが不思議と感じて、なおかつそれに理解できたかということを尺度として持つということは一つの重要なテーマだというふうに思う。
委員	2階の理科実験室とかで熱心な中学生ぐらいの子が、不思議に思ったことをその先生に投げかけたら、先生が全部ホワイトボードに書いて、説明してというようなことを何回か見た。その子はまたまたその専門の先生に投げかけて全部解決してもらったと思う。自分の考え以上の専門家の先生の意見なので受け入れると思うが、もしかしたら今の話、友達と一緒に来て、何

	人かでその不思議をぶつけ合うといいのかな、そういう同じぐらいの年齢の子どもたちで話し合いが出来ればいいのかと思った。 もう一つは、観光客の方がよく見えるという話だったが、玄関に置いてあるアンケートに、例えばどちらから来ましたかという項目があって、それが旭川市外、道外とかで観光客の来館動機、どのようなものがあるのかといったものを集計していくとか、そういうものがあったら、本来の目的ではないのかもしれないが観光客とか、外国の方の集客をより増やすというか、より楽しめるような方針を考える参考になるのかなと思った。 あともう一点、いつも子どもが企画展に楽しく参加させていただいているが、このテーマを考えるとときにどのような尺度、基準があるのかとも思っていた。昨年ゴジラ展は地学と映画文化のコラボだと思っていたのだが、今年は天文学ではなく気象予報学、それをメインとして大雨の謎を解くというようなものだと思うが、専門的なものは都度検討されているのか、それとも順番に地学、天文学、気象予報学、物理学いろいろと決まっていって、その年に人気の有名な方を呼んでいる状態なのか。来年度はどんな基準で考えているのか。
事務局	物・化・生・地とかの順番を想定して決めたわけではない。科学館職員は市役所職員として採用されたものばかりなので、特定の専門家というわけではないが、その専門家ではないなりに多少は得意な方向性みたいなのはあって、限られた人数で実施するためにはそれぞれ得意な分野が互いに重なるような内容じゃないと取組にくい。天気というテーマの場合、いろいろな要素があるため複数の職員が協力し合えるということで選んだという経過である。
事務局	不思議の共有について、私も講座の様子を眺めるが、子どもと講師のやりとりもそうだし、子ども同士の「できた」「うまくいった」「あんまりうまくできなかった」そういった子ども同士の表情とか、「よしっ」というその達成感を表す様子、それから終わった後に、休憩室や廊下で待ってるお父さんお母さんに「できた」とか「終わった」と言う伝達、そうしたところでの子どもの表情を通じて共有が行われてるのではないかなと思う。それが委員が御指摘していただいた部分なのかなと受け止めさせていただいた。 それから、アンケートについては外国語表記のアンケートも含めて取り組んでいきたいと思うので、これについては検討を進めたい。今週から4階の天文台において、世界地図と日本地図を用意して「あなたはどこからきましたか」というのを貼ってもらう取組を始めたところである。それらを合わせてやりながら、コミュニケーションの量を増やして、科学館の運営を進めていきたいと思っている。
会長	見える化はすごく難しい。SNSを活用するのが全て良いとも言いきれないところもあるが、「いいね」ではないが科学館に行ったら楽しかったというのがたくさんあれば、やはり観光客も行ってみたいと思うだろうし、体験型の展示や事業はすごく子どもも親も興味を引くだろう。何かそういう動画が少しだけ上がって、何月何日にこれが体験できますみたいなことになると、「やってみたい」ということにも繋がるのかなということを少し感じている。出来る範囲でということではしかないと思うが。
委員	アンケートだが、書く用紙があるが団体で見えた方とかで、展示を見て書

	く時間が無くなった人もたくさんいると思う。別枠でもいいのでQRコードをつけて、いつでもいいから時間があるときに今までの感想だとか、良い悪いだとかのフィードバックをもらうようにしたら絶対回答が帰ってくると思う。これ一つ考えてほしいなど。
事務局	QRコードで入力フォームを用意することだと思うが、こちらのツールを使ったフィードバックをもう少し丁寧に掘り起こせるようにしていきたいと思う。
会長	そのほか意見等がなければ次に進む。

(5) その他

会長	議事(5)について、事務局から特に発言はあるか。
事務局	ない。
会長	発言がなければ次に進む。

3 報告

(1) 観覧料等の料金改定について

会長	報告(1)について、事務局から報告願う。
事務局	資料3に基づき報告
会長	報告(1)について、質問、意見等の発言を願う。
委員	料金の値上がりというのは暖房費と冷房費と人件費という説明でよろしいか。
事務局	もろもろの経費があるが、人件費とか、管理費全てを含めて計算した結果、このような結果になったが、実際には1.5倍以上にならないようにという縛りを設けているので、実際に計算するとこれ以上になるのだが、激変緩和ではないが、それを超えた場合は1.5倍を上限として今回料金改定させていただいたという経緯がある。
会長	ほかに発言はないか。 なければ、本日の議題については全て終了した。これをもって全ての議事を終了する。

4 閉会